家の中には古道具がたくさん。
持ち主がいなくなってもそこに残されています。
なんとなく彼は道具をじっと眺めてしまいます。

彼は機械ですが、機械になる前は道具だった気がしています。
遠い遠い昔のことですが、記憶がある気がします。
だから、彼は自分のことは付喪神だと思っていますが、それは定かではありません。

とにかく彼はもともと道具だったので人間と付き合いすぎ、見かけより感情が人間的なのです。
なので、持ち主がいなくなったままの道具を見ると、なんとなく感慨にふけってしまうのです。

荒野にはいつもいしけむりが出るようですが、まあなんとかなるでしょう。見ばけぜろ’’’